

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）
県政の課題（テーマ）報告書

令和 6 年 9 月 15 日

山梨県知事 殿

氏 名 富田 理沙

留 学 先 フランス

留学期間 令和 5 年 8 月 24 日

～ 令和 6 年 8 月 23 日

1 県政の課題（テーマ）

「ワイン県」宣言を活用した観光振興

2 概要

県政の課題（テーマ）を解決に導く考え方及び対応策等

私は、県政の課題として、「ワイン県」宣言を活用した観光振興と県内地場産業の海外販路を選択した。このために、今後も継続して山梨ワインを生産していくうえでの課題として、環境的・物理的に山梨県が今後もブドウ栽培を行えるようにするための温暖化への対応と、経済的に山梨県がワイン産業を売り出せるようにするための海外での認知度向上が挙げられる。

まず、温暖化や環境変動に対応したワイン造りに関してであるが、フランスでは、現在、今後のことを視野に入れたうえで、環境に負荷をかけないワイン造りを行っている。例えば、Agriculture Biologique という団体では、畑作業に使用する農薬や醸造中に使用する化学製品の制限を行うことで、地球に与える負荷を小さくし、今後の環境変動の影響をできるだけ小さくするための取り組みを行っている。しかし、このような製品の制限を行いながら、病気にかからないようなブドウ栽培を行うというのが難しいところである。例えば、これまで、化学的な除草剤を使用していたところを、人間の手による草刈りを行うことは、体力的にも人件費的にも大変なことである。また、醸造中の化学製品の使用制限は、単に量を減らすだけではワインの品質低下につながる。



(写真 1)
手作業で除草を終えた後の畑

そのため、より根本的に土壌改善を行い病気にも負けないようなブドウ栽培を行うという方法を取り入れているワイナリーも多く見受けられた。それは、ビオディナミという方法だ。この方法は、月の満ち欠けなどに合わせて栽培・醸造などを行うこともあるため、化学的証拠が不足していると指摘を受けることも多い（私もフランスでよく勉強する前には勘違いをしていた）が、実際には、土壌改善による土壌中微生物活性化をメインとした取り組みであり、スピリチュアル的なものではないということが分かった。

このようなフランスの取り組みを参考にすることで、今後、山梨でも環境に負荷の少ないブドウ栽培・ワイン醸造を行いつつ、将来的にも山梨県でワインを生産できるような土壌体勢、環境を整えることができるのではないかと考える。同時に、次の海外販路にもつながる話となるが、このような自然を配慮したワインはフランスにおいても消費者からの人気が高いため、日本ワインに興味を持ってもらうきっかけにもなり得る。

続いて、山梨県総合計画「攻めの『やまなし』成長戦略」にて言及された、県内地場産業の海外販路、海外での認知度の向上に関して、現状山梨ワインに限らず、日本ワインの認知度は非常に低い。それは、日本ワインの質が低いという訳で決してなく、単純にこれまで日本ワインの輸出してきたことが少なく販路が確立していないからである。また、それゆえ、日本ワインの魅力が海外に伝わっていないのも現状である。実際に、私自身、フランス人に日本のワインを飲んでもらったところ、比較的好反応であったものの、みんな初めて飲む人が多かった。

日本ワインの魅力を伝える、という意味では、昨年、私自身も参加させていただいた日本ワインサロンは非常に有効であった。このイベントをきっかけに、フランスの

ワインショップやレストランにワインを置いてもらうことが決まったり、世界的に有名なワイン関係者にワインを試飲して意見をもらったりなどと、日本ワインを世界に発信する初となる現場を目の当たりにすることが出来た。このイベントは前回の大好評につき、第二回目の開催が決定しているようであるが、前回の一回だけでこのような大きな成果を出すことが出来た。

フランスでは、このようなイベントごとに足を運ぶのを好む傾向にあるように感じる。そのため、山梨のワインを世界に売り出すための販路を作るのであれば、積極的にイベント出店を行うことで、認知度の向上・海外進出に繋がると考えられる。



(写真2) 日本ワインサロンに多くの人が集まっている様子